

「情報公開文書」

(最終更新日 2024 年 2 月 14 日)

受付番号：受付-34914

課題名：開咬症例における矯正治療と外科的矯正治療の比較

1. 研究の対象

2008年4月から2020年3月までの期間に当科における初診時基本検査で前歯部開咬を示した永久歯列完成後の患者の中で、外科的矯正治療で治療を行なった患者と歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正治療で治療を行なった患者。

2. 研究期間

2021年6月(倫理委員会承認後)～2025年3月

3. 研究目的

永久歯列完成後の前歯部開咬に対する形態的アプローチとしては、上顎骨骨切り術を含む外科的矯正治療もしくは歯科矯正用アンカースクリューを固定源として歯の移動(臼歯の圧下)を行う方法があげられる。しかし、これら2つの治療方法における臼歯の圧下量、後戻り量、長期的予後などを比較した報告が少ないことから、適切な治療方法を選択することが困難なことがある。本研究は、これまでに東北大学病院矯正歯科にて治療を行った患者資料を用いて、それぞれの治療法に対してセファロ分析による形態的評価、比較を行い、臨床的診断基準を明らかにする。

4. 研究方法

- ・ 2008年4月から2020年3月までの期間に当科における初診時基本検査で前歯部開咬を示した永久歯列完成後の患者を抽出する。
- ・ 全被験者を外科的矯正治療で治療を行なった患者約10名と歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正治療で治療を行なった患者約10名の合計約20名に分ける。
- ・ 初診時および動的矯正治療終了時、保定観察時の患者資料(側面頭部X線規格写真)を計測対象とする。
- ・ 側面頭部X線規格写真に対し、線分析、角度分析を行う。
- ・ 各評価項目について治療前後および保定観察時の比較および群間比較を行う。
- ・ 開咬症例に対して、長期的予後まで含めた治療法の差異を明らかにする。具体的には、大白歯の圧下量の違い、後戻り量の違い、顎骨の変化量の違いなどを明らかにする。

5. 研究に用いる試料・情報の種類

側面頭部 X 線規格写真を用いる。これらの資料は通常の診療で使用した既存の資料である。

6. 外部への試料・情報の提供

該当なし

7. 研究組織

「本学単独研究」

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号
東北大学大学院歯学研究科 顎口腔矯正学分野
TEL：022-717-8374 FAX：022-717-8378
北浦 英樹

研究責任者：

溝口 到 職名 教授
東北大学大学院歯学研究科 顎口腔矯正学分野
〒980-8575
住所 仙台市青葉区星陵町4番1号
TEL 022-717-8374 FAX 022-717-8378
E-mail mizo@tohoku.ac.jp